



白馬童子

糸魚川市立糸魚川小学校

学校だより 第10号

令和6年2月22日

TEL:025-552-0042

FAX:025-552-1304

E-mail:itosyo@itoigawa.ed.jp

(HP)<https://www.itoigawa.ed.jp/itosyo/>(携帯)<http://itoigawa.ed.jp/itosyo/otayori/i/>

言の葉 言葉を大切にしよう (2月15日 校長講話から)

校長 富永 浩文

図書ボランティアさんが、皆さんに読み聞かせをしてくださっています。私も、学校を回りながら、その様子をうれしく、楽しく見せていただいています。

ボランティアさんや学校司書さんは、皆さんが喜んでくれる本を選び、面白さや大切なことが伝えられるように、読み方を工夫しながら、豊かな表情で読んでおられます。一つ一つの言葉を大切に、思いを込めて、丁寧に読んでくださいます。聞いている、あるいは、見ている皆さんも、とても真剣で楽しそうです。

言葉は、言の葉と言います。人の心の中から出た芽が 成長し、たくさんの葉をつけることに例えて表したものです。草木の葉が、陽の光に照らされて、きらきらと輝くように、また、緑や黄色、赤など、色とりどりの美しさを表すように、本の中から、ボランティアさんを通して、聞いている皆さんに届けられます。

輝く言葉や美しい言葉は、人の心を温め、安らぎを与えます。愉快的気持ちにしたり、勇気を与えたりもします。固く閉ざされた心は耕され、冷たく凍り付いた心は溶かされます。そのような言葉が積み重なっていくと、心の中は、森の中の地面のように、柔らかで、栄養が豊かになります。そこから、また素敵なアイデアや優しさ、思いやりの芽が出てきます。そして、周りの人に対しても、正しく、美しい、そして優しい言葉をかけることができるようになります。

皆さんの中には、私に思いやりのある、優しい言葉をかけてくれる人がいて、心がほっと温かくなることがあります。教室を回っていると、学習時間中、感動するようなアイデアや考えを聞かせてくれることもあります。だから皆さん、言葉、言の葉を大切にしましょう。普段の会話はもちろん、作文やメールなどの書き言葉でのやり取りなど、受け取る相手の気持ちを考えた言葉を遣いましょう。乱暴な言葉や間違った言葉は、その人から出たら消えることなく残ってしまい、人の心を傷つけてしまいます。自分の心も貧しくなってしまいます。

そのために、皆さん、ボランティアさんや司書さんの美しく温かい言葉に学びましょう。教科書や図書室の本の、正しく、心に響く言葉に学びましょう。有名な文章は何度も何度も読んで、暗記して言えるようになるといいですね。子どものころに覚えた言葉はずっと忘れずに心の中に残り続け、豊かな体の一部になります。人は、学んで身に付いた言葉でしか頭の中で考えることはできません。そこから性格や人格がつけられていくのです。

美しく輝く言の葉や、正しく、温かい言の葉であふれる言葉の環境をつくっていきましょう。そして、少しくらい辛いことにも負けない強く、温かいエネルギーを蓄えましょう。



美しく楽しいお話の世界に

さて、糸魚川小学校の先輩で作家・批評家の若松英輔さんが、能登半島地震の発生を受けて、新潟日報のインタビューに答えていました。被災者に思いを寄せながら、「小さな言葉を、たき火にまきをくべるように互いに掛け合う。厳しい状況でも自分たちを支える言葉が自分たちから出せる、そのような底力が人間にはあります。」と言っています。小さな言葉でも、人を支える力があることを信じ、学び、蓄え、大切に使っていきたいですね。